

JOMO 高崎の生活情報紙

Takatai

タカタイ

高崎市・群馬町・箕郷町・吉井町

毎週金曜日発行 50,000部

発行 上毛新聞社 TAKATAI室 〒370-0006 高崎市内屋町2-3-6
編集 027(370)1100 広告 027(370)1200 FAX 027(370)1500
E-mail: takatai@mail.jomonet.co.jp

2/8

2002
604号

- ② ハイ元気で
堤ヶ岡幼稚園の年長さん
- 3 ラジオ高崎番組表/映画案内
- ④ 歩いて発見味な店
魚辰&フォンティーナ
- ⑤ 見てみようエイブルアート
- 6 消防人として思うこと/児童館だより/催しガイド
- 7 市民医学講座/歳時記
- ⑧ 中国の少数民族を訪ねて
- 10 今週のおすすめBOOK/二字熟語/パズル
- ⑪ 源氏物語・愛と智慧(165)
- ⑫ アート
- ⑬ 最新チョコレート情報/CDビデオ
- 14 読者の声
- 15 あなたの運勢/今日の言葉
- ⑬ ハートフルの多彩な活動

開かれた福祉目指すNPO「ハートフル」

みんなが
自然に助け合う

石原町にあるNPO(特定非営利活動)法人「ハートフル」(櫻井宏子代表)は、「年齢や障害に関係なく、みんなが自然なかたちで足りない部分を助け合える社会づくり」をモットーに、1999年9月の設立以来さまざまな活動に取り組んでいる。

地域に根ざした活動

今年から、近くに住む主婦やボランティア、ヘルパーにも参加してもらって、古い着物を利用した小物作り講習会や竹を使った鉢カバー作りを新たにスタートさせた。これまでの「ちゃんちゃんこ作り」教室(毎週木曜日)と合わせて、世代を超えた地域との触れ合いの場として、さらに活動の幅を広げていく。



代表の櫻井さん



竹を丹念に削り鉢カバーを作るボランティアとスタッフ



ヘルパーに縫製を教える西村さん(左)

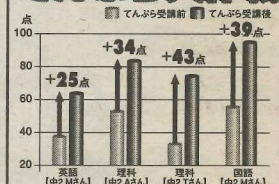
ハートフルは、開かれた福祉を身近な地域から実践していこうと、介護保険ではカバーし切れない、きめ細かなサービスを提供。高齢者、障害者の介護・介助はむろんのこと、通院や買い物、育児の手助け、犬の散歩、草むしりなど、どんな要望でも出来る限りこたえたいという方針だ。温かい手作り配食サービスや、ときにはお年寄り子どもが一緒に楽しめる「うどん打ち」など、参加者全員が喜びを分かち合える行事を取り入れている。こうして、利用者(会員)の「生きよう、やろう、という自立心を引き出している。

利用者の夢かなえたい

生きがいづくりの一つとして続けている「ちゃんちゃんこ作り」は、吉井町の西村耐子さん(88歳)が寄付で集まった古い着物を使い、慣れた手付きで参加者に作り方を教えている。施

設には活動を支援する各団体や個人から竹や木なども寄せられており、今後、これらを材料にいろんな作品づくりに取り組んで、「利用者の夢を一つずつかなえていきたい」という。

(16面に関連記事)

期末テスト対策ならやっぱり
てんぷら大作戦

得点UP! 内申点UP!!

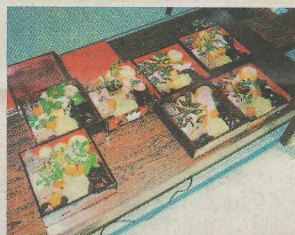
●お問い合わせは
027-361-6218
高崎トレーニングホーム

NPO「ハートフル」の活動紹介

「ハートフル」では利用者および支援者を随時募集している。問い合わせは☎325・5085へ。

生きる喜び 分かち合う

「ハートフル」の多彩な事業は、利用者一人ひとりの声が生かされている。その活動をヘルパーや多くのボランティアスタッフが支える。代表の櫻井さんは「利用者と喜びを分かち合えること、『生きていて良かった』と思ってもらえることが、何よりうれしいこと。ハートフルの持ち味を生かした活動をこれからも続けていきたい」と話す。先月からは片岡町の民家を利用したデイサービス「よってって」を開設した。



配食サービス

配食サービスは利用者との大切なコミュニケーションの場になっている。年末には「おせち料理」も作られた。



「気持ちを豊かにしてほしい」と、花や土いじりの機会を設けている。花の販売は大きな収益事業の一つでもある。

花の販売



庭木のせん定、草むしり

プロに協力してもらい、庭木のせん定に行くこともある。事業には多くの人がさまざまな形で参加している。

「もちつき」や「手打ちうどん」などは、子どもとお年寄りが触れ合える貴重な機会。双方から「一緒に作業ができて楽しい」の声が寄せられている。

うどん打ち



入浴サービス

昨年末、訪問入浴車が導入され、一層利用者の声にこたえられるようになった。



「よっといで市」

地域や利用者との交流の場「よっといで市」。これまで3回行われ、多くの出会いを生んだ。過去に西村耐子さんが作品を出品したことが、「ちゃんちゃんこ作り」教室を開くきっかけとなった。



講習会
支援者から提供された材料を使って講習会を開いている。でき上がった袋ものや鉢カバーなどは今後、バザーなどでも販売していく。